



アジア タイ



日・タイ技術移転事業

人材育成と研究設備の整備を組み合わせ、日・タイのトップレベル大学間の学術交流を支援

序章 わが国のODAと JICA

第1部 JICAの事業評価 評価制度とは

第1部 JICAの事業評価 評価の向上に向けた取り組み

トピックス

第2部 プロジェクト・レベルの評価 外部の第三者による事後評価

アジア 中東・アフリカ 中南米 大洋州 欧州

第3部 プログラム・レベルの評価 プログラム評価

テーマ別評価

資料・リスト 実績一覧・用語集

【外部評価者】

株式会社国際開発アソシエイツ 原口 孝子

レーティング

有効性・インパクト	a	総合評価 A
妥当性	a	
効率性	a	
持続性	b	

本事業の目的

首都バンコクに位置するチュラロンコン大学の理学部・工学部を対象に、教員の学術水準の向上および教育・研究施設の拡充を行うことで、科学技術教育および研究開発活動のレベルアップをはかり、もってタイの工業開発の促進に資する。

借款契約概要

- 承諾額／実行額：73億800万円 / 64億4400万円
- 借款契約調印：1995年9月
- 借款契約条件：金利2.7%（コンサルティングサービス部分は2.3%）、返済25年（うち据置7年）、一般アンタイド
- 貸付完了：2006年10月
- 実施機関名：チュラロンコン大学
- URL：http://www.chula.ac.th/index_eng.htm

本事業実施による効果(有効性・インパクト)

理学部、工学部とも、博士号を保有する教員が大きく増加し、事業前の44%から事業後は70%に達した。本事業による学位取得者(37人)は全員チュラロンコン大学に残り、この一部を構成している。本事業により30以上のコースが新規開設され、計93コースで授業内容が改善した。2008年の国際ジャーナル掲載論文は理学部231報、工学部136報で、大学全体を上回るペースで増加し、学位留学や短期の研究者交流により新たな技術・研究手法が習得された。さらに、本事業の調達機器を用いた研究が数多く論文として発表され、機器の8割は事後評価時に活用されている。外部の評価では、国際的な大学ランキングにて、09年アジア自然科学系30位、工学系24位との高評価や、本事業の支援対象と関連の高い受賞がみられる。

産業界へのインパクトとしては、理学部・工学部の学術サービスによる企業の研究開発活動への寄与が認められる一方で、特許出願・取得やライセンス契約締結等の具体的な研究開発成果は今後の達成が期待される。

理学部・工学部教員に対して行った満足度調査によると、事業実施プロセス、事業効果ともに、回答者92人中82%が「非常に満足」または「満足」と回答した。また、個別の効果では、日本との連携機会が創出されたことに高い満足が表明された。

本事業の実施により概ね計画どおりの効果発現が見られ、有効性は高い。

妥当性

本事業の実施は審査時および事後評価時ともに、開発ニーズ、開発政策と十分に合致しており、事業実施の妥当性は高い。タイの国家開発計画では審査時、事後評価時ともに科学技術分野の拡充による人材育成や同分野の高等教育・研究活動の推進が重要とされている。

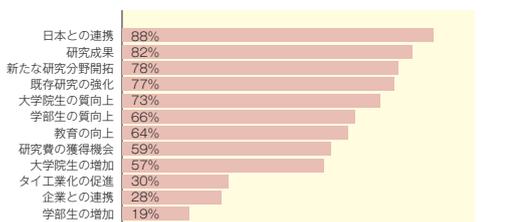
効率性

本事業は、事業期間および事業費ともにほぼ計画どおりであり、効率的に実施されたと判断される。

今後の展望(持続性)

本事業は長期的なインパクト(特に産業界への技術移転)が発現するまでの間、整備された教育・研究機器が適切に運営・維持管理・更新されるかに懸念が持たれており、事業の持続性に一部問題があることから、中程度と評価される。

事業効果への教員(受益者)の満足度



[出所]受益者調査

結論と教訓・提言

以上より、本事業の評価は非常に高いといえる。本事業の教訓として、人材育成(ソフト面)と施設・機材整備(ハード面)を効果的に組み合わせ、効果を上げたことが他事業の参考になる点が挙げられる。チュラロンコン大学に対しては、未使用機器の活用、効果的・持続的な運営・維持管理の実行や、産業界への技術移転の促進が望まれる。

※ 本件を含むすべての事後評価報告書は、JICAウェブサイトの「事業評価→事後段階の評価(事後評価・事後モニタリング)」からご覧いただけます。(URL:<http://www.jica.go.jp/activities/evaluation/after.html>)